

# 名大の時間

## 卒業論文を書くこととは

きかもしれないが、国家試験直前のかなりピリピリした状態では、いくら図太い神経の私でもゼミ生に頼みづらい。そのため教員の私が書きます。

卒業論文は、学生生活の一大イベントと言っている。学生は入学以来、様々な専門的知識と技術を習得し、その集大成としてそれまでの学びを活かし、自身の

関心のあるテーマについて探求する。近年、卒業論文は選択科目にし、論文を書かないでも卒業できる大学も増えているが、本学は全ての学生が論文を書かなければ卒業できない。大学は知識を詰め込む機関ではなく、自身で考え悩み、答えにたどり着く方法を学ぶ場だと思おう。卒業が必修であることはとても素晴らしいことだと思

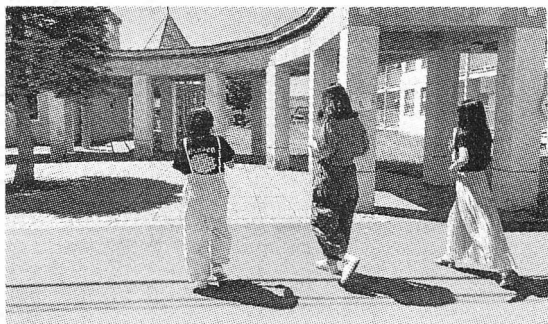
う。

私のゼミでは、歴史についての論文を書くことになってい

る。社会福祉学科ではあるが、社会福祉にこだわり過ぎず、ゼミ生は自由にテーマを決定している。これまでの卒業論文では「左利きの研究」や「整形論」など一見すると福祉に繋がらなさそうなテーマもあるが、最終的には福

祉的な視点をもった卒業論文となる。テーマが多岐にわたるためアドバイスは大変だが、学生が興味のあるテーマを深掘りし、悩み考えぬく場に立ち会えることはとても幸せだ。

研究とは具体的な問いを立て、その問いに対する答えを導き出すことのできる適切な方法を考え、その方法によって得たデータを解釈し、答えを導き出すものだ。ちょっと難しい気もするが、これは誰しもが経験してい



「答え」を導き出そうとしている。そういう意味でみんな研究をしている。

学生は卒業後も色々な悩みと共に生きていくと思う。この複雑で殺伐とした現代社会を生きていくなかで卒業論文の経験を活かしてくれることを願っている。

社会福祉学科講師

江連 崇

本来ならばゼミ生が本コラムを書くべ